

# 皆野・長瀨ロータリークラブ

## 週報

- ◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
- ◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
- ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内  
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134  
e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
- ◇点 鐘 山田 利明会長
- ◇ソング 我らの生業



ロータリーは機会の扉を開く

Rotary Opens Opportunities

第1520回例会 令和2年9月24日(木)

# 秩父RC/皆野・長瀨RC合同例会

### 【会長の時間】

今日はガバナー公式訪問が中止になりましたが、せっかく秩父に行こうと考えていたので、おじゃましました。

今年会長との話として、自然に生きようをテーマに話しているつもりです。会長が4日目にもなるとネタがなくなりまして、神秘数学とか占いの話もしましたが、話題がなくなりました。

私は11月で70才になります。大した病気もなく、子供の頃盲腸をやったくらいで丈夫に生きています。

趣味は多数あります。子供の頃は工作が好きでした。それで今の仕事をするようになっていきます。仕事が趣味のようになっていきます。設計ばかりしていると、内にこもりますので、健康的ではありません。そこで山登りをしておりまして、18才からロッククライミングをしております。谷川岳、穂高とか行きました。日本で難しい所はほとんど登っています。しかしこれ以上やると亡くなっている方もいるという事で、今はハイキングをしております。昨年は5泊6日で雲ノ平に行ってきました。そしてコロナの感染が拡大しましたが、昨日、一昨日と立山雷鳥沢キャンプ場に行きましたが、あれほど混んでいた事はありません。ラッシュのようにテントが張られていました。静かな所でしたが、今年にはコロナの関係で集中します。

また私は音楽の趣味があります。高校の頃ブラスバンド部でサクスを吹いていました。深呼吸をして息を吐きますが、2分くらい息が続かないとダメなのですが、3年間やりました。深呼吸は身体に良いです。頭も冴えます。今あまりサクスは吹いていないのですが、音符が読めますので、ピアノ、ギターを弾いて、少しずつ練習しています。

趣味があって、自然が好きで、今自由に生きています。多様性に生きるという事が良くて、適当に遊びながら趣味をやり、ストレスを無く

山田 利明



そうという事で、私は今年には自然に生きるという事にしています。ちょっと薬を飲んでいるという事もあります。毎日野菜を食べ、ご飯を少しにして、毎日8千歩歩くと。毎日自然に生きるようにしています。

自由に生きて、自然に生きる。花を見ながら太陽を見ながら、今日は雨だからどうしよう、今日は晴れだから歩こうといったように、自然と共に生きれば一番いいと思います。ロータリーにもできる限りお世話になりたいと思っております。

### 【秩父RC会長挨拶】

太田 雅孝様



皆さん、こんにちは。やっと秋めいてきた感じがします。各地の行事が軒並み中止となっております。先般秩父夜祭りが中止になりました。当初予定しておりました新営扶輪社との姉妹クラブ締結50周年の企画もこの時点で中止となっております。

オリンピック同様、次年度に延期したいと考えております。

祭の起源は多種多様です。概ね五穀豊穡、無病息災、自然への畏敬等だと思っておりますが、感染症のパンデミックから中止になっておりますが、皮肉めいており寂しいところです。

本日はガバナー公式訪問の予定でしたが、ガバナーの体調不良のため延期になりました。

10月6日の理事会で手続きを致しますが、11月10日にガバナー公式訪問を延期したいと考えております。ガバナーのご都合を優先してこの日程でご承知したいと思います。ガバナーの卓話を中心になると思います。今日は予定していたDVDを見て頂きたいと思っております。

また本日はせっかくの機会ですので、皆野・長瀨ロータリークラブの方に来て頂く事になりました。皆野・長瀨ロータリークラブは秩父ロータリークラブの子クラブとして昭和61年にスタートして、34年の歴史があります。

歴史という部分では相原ガバナーのお父様の

代、43年前ですが、ガバナー公式訪問をされております。その際、武甲山のスケッチ等されております。画家としても有名です。その頃より在籍されている方は強谷さん、宮前さん、矢尾さんのお三方です。ロータリークラブの長い歴史と多くの会員の皆様に支えられていると感じる次第です。11月10日を楽しみにしたいと思っています。

9月16日に寄居ロータリークラブで現役の銀座のママさんの講演があるという事で、サービスの概念といった所を聞いてこようと考え行って参りました。かなり有名な銀座のクラブです。

10月27日のチャリティーゴルフですが、大勢の皆様方に集まって頂き、200名を越えております。ウェイティング状態の方が5組くらいいらっしやいまして、調整中です。

それぞれのクラブが知恵を出しながら例会をやっております。リモートですとか、コミュニケーションの方法等、いろいろやっております。いつも思いますのはメンバーがいるだけで安心感があるクラブであったり、繋がりのある人生がロータリークラブではないかと思っております。ロータリーの友7月号。8月号にこんなふうにやっていますと載っておりますので、一読して頂ければと思っております。

今更ながらロータリーの価値観ですとか精神を受け止めているような状態です。

#### 【幹事報告】

高田 富康



皆野・長瀬ロータリークラブで3回目の幹事をお世話になっております。

特に本クラブの幹事報告はございません。今日はよろしくお願い致します。

#### 【秩父RC幹事報告】

今泉 学之様

1. ガバナーよりガバナー公式訪問延期のお詫び
2. 米山記念奨学会よりハイライトよねやま
3. 本多静六候補者募集リーフレット送付について

皆野・長瀬ロータリークラブの皆様、ようこそおいで下さいました。



## DVD鑑賞

### ガバナー相原茂吉の想い

## Rotaryの原点

今年度ガバナーを拝命致しました相原茂吉です。川越ロータリークラブ所属です。さてご承知の通り今年度RI会長ドイツ人のホルガークナークさんです。職業は不動産屋さん、67才、非常に人柄の良い鼻眼鏡の似合う紳士です。

会長のテーマは「Rotary Opens Opportunities」ロータリーは機会を扉を開くであります。この意味はロータリーの世界に訪れましょう。そして扉を開き行動し、より一層の意義ある人生をつかみ取りましょうというふうに私は解釈致しました。私もロータリーに対してまったく無関心でございましたが、2005年ロータリーの扉を開いて以来、多くの人に巡り会い、いろいろな機会を頂き、様々な幸せを頂きました。今年の1月にはガバナーエレクトとして、世界のガバナーエレクト530人とサンディエゴの国際協議会にも参加出来、多くの事を学びました。ロータリーには本当に多くの機会、Opportunitiesの扉があります。同じ機会でもチャンスというのは偶然に訪れるもの、オポチュニティーというのは、自分の手でつかみ取るものだそうです。皆さん、是非ともロータリーの新しい扉を開いてください。扉の向こうにじゃ多くの幸せが待っています。

そして私の今年度のテーマ「Let's make fellows」友達を作ろうであります。友達、それも同じ価値観を共有できる友達は本当に人生を豊かにすると思えます。学生時代の友人、仕事の友人、ゴルフクラブの仲間、人生にはたくさんの友達がいます。ロータリアン、それは地域社会でリーダーと称される集団であります。奉仕の理念の下、同じ価値観を共有する仲間の集団です。そういった仲間を増やす事は人生にとって大きなメリットがあると思えます。

言うまでもありませんが、多くのロータリアンのご自身の努力や幸運の結果、そうでない人と比べて、比較的人生の幸せ感や達成感が多い人達です。しかし、同時に悩みも人一倍多いと思えます。だから同じ価値観を共有できるのだと思えます。そんな友達が多い人生は必ず幅が広がるし、自分自身の成長にもつながると思えます。

私はロータリーは知れば知るほど奥が深い、そしてロータリアンの方々には、本当に尊敬すべき素晴らしい方が大勢いらっしやるという事が分かりました。ぜひ皆さん、ロータリーを通じて素晴らしい友達をたくさん作ってください。そして人生を豊かにして下さい。

ところで今、新型コロナウイルス問題が重大化されております。感染、パンデミックから来るストレスやリスクは当然の事ですけども、経済への影響が半端ではありません。皆さんのお仕事にも例外なく相当なストレスとダメージを与えているかもしれません。人によっては「ロータリーどころではないよ」という方もいらっ

しゃるでしょう。

ガバナーとして2020年のスタートは非常に厳しいスタートとなりました。ガバナーはRIの役員であり、その使命はなんと言っても地区の活性化であります。すべての活動が自粛を要請されている今、活性化は非常に難しい課題であります。そこで、もしかしたら公式訪問が出来ないかもしれない。その場合私の想いを皆さんにお伝えしたくて一つのDVDを作る事に致しました。このDVDをご覧になって「そうかだから今こそロータリーなんだ」というふうに思ってもらえれば望外の光栄でございます。ではその話をさせていただきます。

私は物心がついた頃、相原家ではロータリーという単語がちょくちょく話題に上がっていました。最初は何の事か分からず、駅前のロータリーの事かと思っておりました。

初めてロータリーを意識したのは高校2年生の時、ロータリーの青少年交換学生で2ヶ月間、アメリカのミネアポリスにホームステイした時の事です。ミネアポリスロータリーの会員の皆さんは、本当に大きくてお金持ちだったのを鮮明に覚えています。

次に意識したのが、父のお葬式の時でありました。本当に多くのロータリアンの方が弔問に来てくださり、たくさんのお花を捧げて頂きました。父の逝去後、強引にロータリーに勧誘されて仕方なく川越ロータリーに入会致しましたが、それ以来私は父がいかにたくさんの方々に愛され、そして尊敬されているのを知りました。

身内の私が言うのも大変僭越ではございますが、逝去して20年経過しておりますので、お許し頂きまして、父がなぜロータリーにのめり込んでいたのか、どうしてロータリーを愛していたのか、その事をお話したいと思えます。父は平成11年満80才で逝去致しましたが、約50年間ロータリーのお世話になりました。昭和52年に第257地区ガバナーも務めました。まだ埼玉県が一つの地区だった頃で、当時257地区は3千名を超える大所帯でした。父は心底ロータリーを愛し、自宅の階段には点鐘用の鐘と槌、4つのテスト、車のフロントにはロータリーのマーク、どこへ行くにもロータリーのバッジを付けておりました。父はロータリーとともに人生を歩んだと言っても過言ではありません。

さて、この度私はガバナーを引き受けたものはなほだ不勉強なロータリアンでしたので、本当に困惑致しました。ガバナーは地区の指導者の立場ではございますけれども、私は皆さんに誇れるものは何一つございません。社会的にも品格的にもたくさんの方々がこの地区には大勢いらっしゃいます。

そこで私は皆さんが愛し、尊敬して下さった父の原稿を読む事からスタート致しました。かなりな量で時間が掛かりましたけれども、私はなぜ父が全身全霊をかけてロータリーを愛していたのか。ロータリーの一番大切な事は何か。おぼろげながらも自分自身分かったような気が致します。

父は幼少の頃から絵が好きで、絵描きになる

のが夢でした。小学校低学年の時に描いた煙突と麦畑の絵が残っておりますが、大人のように上手な絵です。父は東京の美術学校に行くのが夢でした。しかし、田舎の商家の長男であるが故、商業学校を卒業するや、実直で勤勉な祖父の下、家業の雑穀問屋を継がなければなりませんでした。

戦争が始まると満州の地に配属されました。絵が好きな父はそこでも絵筆を手放す事無く、満州の荒涼たる原野や人々を描き続けました。上官や戦友にも頼まれ絵葉書によく似顔絵も描いてあげました。戦友達は喜んでその葉書を内地の家族に送ったそうです。自分の母に送った満州時代の絵葉書は後にまとめて一冊の本として光村印刷から刊行されました。「満州点描」と題された画集は兵隊が描いた貴重な作品でもあり、美術的な評価も頂き、その年の通産大臣賞を受賞致しました。

戦争が終わり、父は運良く帰国出来ましたが、相原家は戦争で何もかも失いました。そこで地元川越のサツマイモから毎朝暗い内から飴を作り、上野の闇市などに売りに行き、食いつないでいたようです。その後、雑穀類の政府統制が解除され、再び商売が出来るようになりました。父と祖父は朝から晩まで死に物狂いで働いたそうです。そして商売も順調になり、再び好きな絵を描く余裕が出来るようになりました。

その頃、縁があって、天才と言われた猪熊先生に師事する事を許されました。父は商売の合間を縫って、田園調布の猪熊先生のご自宅に行くのが何よりの楽しみでありました。私も一度だけ父の運転手をして猪熊先生のご自宅に伺った事があります。本当に上品な奥様が私に何気なくお話されました。「今日は洋子ちゃん達が軽井沢の別荘に来ているのよ。」後で聞いてびっくりしたのですが、洋子ちゃんとはジョンレノンとオノヨーコだったそうで、腰を抜かした事を今でも覚えています。猪熊先生はニューヨークに拠点を持つ国際的文化人でした。その猪熊先生のご指導もあり、父は、長い間のブランクを取り戻すように腕前はぐんぐん上達しました。上野の展覧会などにも出品すると必ず入賞するようになりました。

ところがある時から父は自分の作品に悩み始めたそうです。悩み出すと展覧会では必ず落選、こういった状態が続きどん底に落ち込んだ父は悩み、彷徨い、悶々とした日々を過ごしたそうです。自分は一体何を書くべきか、そんな時、真冬の北海道を訪れました。帯広から旭川に向かう途中の狩勝峠、タクシーの窓からしんしんと降る雪で真っ白となった景色に遭遇しました。果てしなく広大で静寂な山々を見た時、思わず鳥肌がたったそうです。俺が描くのはこれだ。それから父は生き返ったように夢中で北海道を描き始めました。

そして急に画壇から騒がれ出したのです。描く絵はもちろんすべて入選しました。そしてついに著名な絵画団体である新制作協会で審査をする立場になりました。雪で覆われた厳しい真冬の北海道。父のモチーフは自分が青春のまっただ中で過ごした満州と重なっておりました。戦争という明日をも知れない状況の中、故郷の

母は元気だろうか。隣のおばちゃんはどうしているだろうかという望郷への思い、真冬のこの上なく厳しい満州と冬の北海道が重なったのです。寒く厳しい冬の先に草木が芽吹く春の訪れが待っている命の尊さ、偶然生き残った事の有り難さ、彼の地で亡くなった戦友達。父は憑かれたように冬の北海道を描き続けました。夢中で描いているうちに、いつの間にか人気作家になり、銀座日動画廊で最も人気作家になっていたようです。

人生というものは厳しい辛い我慢の連続、しかしその中で人と会い、心ふれあってぬくもりを求めて行こう。ポールハリスがロータリーを作った原点と父の思いが重なりました。20世紀初頭、田舎から出て来た若い弁護士ポールハリス、荒廃したシカゴの街角で孤独な生活を送っておりました。真の友達が欲しい。お互いに心を癒やし合える相手を下得たのがロータリーのスタートだと聞いております。

ロータリーは荒廃した時代を憂える人達に支持され、互惠関係取引などビジネス上のメリットも加わり、急速に発展しました。組織は拡大し、会員数も飛躍的に増えて行きました。加入する人達が増えるに従って価値観や考え方が多様化していきました。しかし根底にあるものは、シカゴのETビル711号室で同じ志を持った4人の心のふれあいであると思います。

ポールハリスは戦前日本に来た時、日本のロータリアンの方から「なぜロータリーを作ったのか」という質問を受けたそうです。その時ポールハリスは「淋しかったから」とお答えになったのは有名な話です。

ロータリーは瞬く間に世界中に広がりましたがけれども、その根底にあったのは心のふれあい、心の癒やしであったのではないのでしょうか。孤独でさみしがり屋だった父がロータリーに魅せられたのも正しくはこの原点にあると思います。

父から常々言われました。人生で一番大切な事は感謝と謙虚だよ。ある程度成功すると、人は往々にして自分の実力を過信し増長する。これが人間の弱さだ。人はけして一人では生きられない。人に感謝する事。それが一番大事な事だよ。

感謝の心は奉仕の原点であり、ロータリーの理念そのものであります。ロータリー会員の皆様は社会的にも成功した地域のリーダーです。しかし、人に言えない多くの苦労や心配事があるはずですよ。だからこそ感謝です。父も晩年、画壇に認められ運にも恵まれた事もあり、画家として成功致しました。その中であって、いつも周囲の方に感謝の意を表す事を心がけておりました。これこそがロータリーに巡り会えた結果だと思えます。ロータリーの教えを実践する父の周囲はいつも温かい空気が流れておりました。この事が更なる幸運を父にもたらしたのであります。まさしく父はロータリーの扉を開いたのです。

現在世界は新型コロナで悲惨な状態になっております。人々は今必死にコロナと戦っております。どうしても心は沈みがちになってしまいます。父の人生にも戦争がありました。満州の原体験から人生は苦の娑婆だ、辛い事や非常時

を我慢する事が当たり前でも、その中に細やかな人との心のふれあいがある。だから生きられるんだ。この事が一貫した父の人生観でした。

ロータリーは奉仕を目的とする団体ではありません。奉仕の心を学ぶ事、人に感謝する事。そして自分自身を磨く事が目的です。同じ志をもった仲間同士が心を通じ合い、励まし合い、その結果豊かな人生に繋がります。だからこそロータリーなのです。ここで私が好きな父の絵を3枚紹介させていただきます。

漁港厳冬 1977年  
幸福駅2月1日 1987年  
天地静寂 1994年

最後になりますが、今年度の月信の表紙には父の絵を使わせて頂こうと思っています。皆様の受け取り方はそれぞれだと思いますが、絵の根底にあるのは父の人生観、すなわち人の温もり、心の癒やしです。生涯ロータリーを愛した一人の日本人の思いであります。毎日心配事の絶えない皆さん、どうかロータリーの扉を開いて下さい。心の扉を開いてください。扉の向こうには高潔な志を持った仲間がいます。皆さんの人生をもっと豊かに、もっと幸せにする機会が待っています。今こそ Rotary Opens Opportunities なのです。

## 出席率

免除以外 会員数	出席	出席規定 免除	メーク	出席率
11	5	0	0	45.5%

